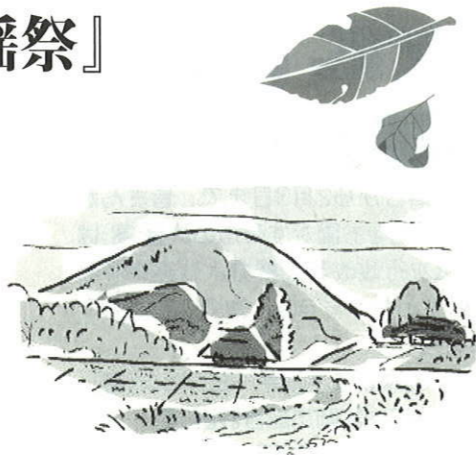


～歌詞募集～ 『かぶらの里童謡祭』

市では、郷土の生んだ童謡詩人橋本暮村を顕彰し、かぶらの里に美しい童謡が歌い継がれていくことを願って、毎年『かぶらの里童謡祭』を開催し、交互に作詞・作曲を公募してきました。今回は、第23回かぶらの里童謡祭の歌詞を募集します。子どもから大人まで広く愛唱され、歌い継がれていくようなすてきな歌詞の応募をお待ちしています。



- ♪ **テーマ** 『童謡でよそおう温かい心』
- ♪ **申し込み方法** ①1人2作品まで（作品は未発表のものに限ります）
②題名、1番・2番・3番など明記する（歌詞の長さは自由）
原稿の裏面に住所・氏名・年齢・職業（学生は学校名・学年）・電話番号を明記してください。
③用紙は20×20の400字詰め原稿用紙使用（パソコンなど使用可）
- ♪ **表彰** 橋本暮村賞（市長賞）、議長賞、教育長賞、文化協会賞、ジュニア大賞
入賞者は第23回かぶらの里童謡祭において表彰します。
- ♪ **申し込み・問い合わせ** 3月31日(水)（当日消印有効）までに、〒370-2345 上黒岩1674-1 富岡市教育委員会文化課 第23回かぶらの里童謡祭事務局「童謡祭歌詞募集」係（かぶら文化ホール内 ☎60-1230）へ。

近代産業の夜明け 富岡の 明治維新

85

払い下げ時点の富岡製糸所長は速水堅曹であったが、彼は明治3年に前橋藩営の器械製糸場設立の手腕を買われ、同年の富岡製糸場設立に関しても意見を求められた。

この時の彼の主張は、官営器械製糸所の設立は時期尚早論であったが、その意見は取り入れられずに工事は着工され、その完成を待って、明治5年10月に操業が開始された。

明治8年、速水が政府の役人に取り立てられた直後の仕事で、富岡製糸所の経営診断であった。彼は経営状況を細部まで調査検討して出した結論が、「早く富岡製糸所を民間に払い下げること」であった。

明治13年、政府はやや遅れた形で「全ての官営工場を払い下げる」という通達を出した。民間の手で経営できる工場はおいおい払い下げていったが、規模があまりにも大きい富岡製糸場は、明治26年まで官営工場として役目を果たしたのである。

この間、速水は明治12年3月から13年11月まで、また18年2月から26年の払い下げ時点まで2回にわたって工場長を務め、経営刷新と黒字経営を成し遂げたのである。

また、彼は製糸所の払い下げが停滞していた明治14年に、自らがこれを5年間ほど借り受け、経営が黒字化した段階で、民間に払い下げるといふ考えを示したが、これも実現しなかった。

2度目の工場長に就いた以降は、ブリュナらが在任していた頃とは異なる労働時間の延長を試み、また輸出先をアメリカへも広め、経営の効率化・黒字化に努めたのである。

彼は旧前橋藩士出身である。一般に「武士は食わねど高楊枝」といわれるように、経済観念やその手腕については不確実性が強調されているが、速水に関しては普通の商人以上に経済的識見が高く、また実行力と自信を兼ね備えた人物であったと評価できる。

このような経歴を積み上げた速水堅曹が、富岡製糸所の払い下げに直接関与したのも興味あるところである。

今井 幹夫

富岡製糸場の歴史を紹介しています。過去に掲載されたものを見たい場合は市長公室に問い合わせてください。

第20回 ニューイヤーコンサート

市文化協会では、新春恒例のニューイヤーコンサートを開催します。

「高崎フィルハーモニック・ソサエティ・オーケストラ」と地元「かぶらフィルハーモニー管弦楽団」の出演で小中学生にも楽しめる内容です。

日時 1月31日(日) 午後2時開演
会場 かぶら文化ホール
入場料 1,000円（全席自由・小学生以下は無料）
チケット かぶら文化ホール・生涯学習センター
問い合わせ 文化課（かぶら文化ホール内 ☎60-1230）
曲目 J.S.バッハ「G線上のアリア」、W.A.モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、J.シュトラウス「美しく青きドナウ」ほか

山崎豊子原作の映画「沈まぬ太陽」を上映します。県立自然史博物館では、この映画の主人公のモデルとなった小倉寛太郎さんから寄贈されたはく製の一部が展示されています。併せてご覧ください。

日時 1月30日(土)
①午前9時30分～ ②午後1時30分～
会場 かぶら文化ホール
入場料 一般=800円、高校生以下=500円
問い合わせ かぶら文化ホール（☎60-1230）

映画「沈まぬ太陽」上映

市民の文芸

漢詩 齋藤清次 選

遊蕩岩崎邸 旧岩崎邸に遊ぶ（七日市）関 利行
緑樹風姿浸碧漣 緑樹の風姿 碧漣に浸し
秋含晩艶石橋邊 秋は晩艶を 含む石橋の辺
池園苔徑低回久 池園の苔徑 低回すること久し
幽邃竝窮一境玄 幽邃 茲に窮ま一つ境玄なり

秋夜吟 秋夜に吟ず（七日市）黒澤 洋
金風颯颯琴聲起 金風 颯々 琴声起り
白露凄凄蟲語酸 白露 凄々 虫語酸なり
月照故山天寂寂 月は故山を 照らして天寂々
星光千里透詩肝 星は千里に 光りて詩肝に透る

過暮坂峠 暮坂峠に過る（中高瀬）相川 清
寥寥山徑落楓輕 寥々として 山徑 落楓輕く
風老空林晚照明 風老いて 空林 晚照明らかなり
放浪詩人何處在 放浪の詩人 何れの処に 在る
對碑懷古促吟情 碑に對して 懷古すれば 吟情を促す

俳句 高橋洋一 選
チャリティーの古着購ふ一葉忌（下黒岩）吉田シズ江
冬の虹くぐる白鷺一羽三羽（曾木）入山 静子
肩借りる女兒のマフラーやはらかし（富岡）折茂 昭
午前様炬燵をつけて帰る待つ（七日市）金田きみ子
氣持ちだけずつと青春菊日和（後賀）湯山 典子
目に代はる犬に引かれて落葉踏む（野上）小野沢基久江
手を引かる大沼湖畔北風の中（下高瀬）小林 春代
志願書を書いてため息秋終る（曾木）曾根はるな（重三）
はやり風邪に学級閉鎖無月（曾木）曾根 静華（重三）

短歌 宮前しづも 選

山頂で眼下に望むパノラマに登りの道の辛さ忘れる（上丹生）高橋 恵子
山の湯に手足伸ばしつづつ亡き母を連れ立つなきを今に悔ゆるも（下丹生）松本 久枝
孫たちの自立の日までのわが健勝貫前神社に今年も祈る（七日市）恩幣 森造
一歳の誕生日間近の孫を抱く手足括れてずつしり重し（七日市）新井 逸子
日の丸の小旗に応ふる両陛下皇后さまの笑まひ美し（南蛇井）横田 久子
この私呼んでくると涙ぐむ同窓会の師は八十歳（下高尾）小林 勝明
わが干支の寅は千里を往き来して成し難き事にも果敢に挑む（下高尾）金田てるじ
吹き込みし粉雪頬に心地よく友と万座の湯に浸りをり（七日市）飯塚有紀子
錦絵の如くに紅葉の写りある秩父の湖はしづもりてをり（白岩）金井 幸子
休日の息子に誘はれ榛名湖へ岸辺を彩る紅葉の木々（七日市）宮 和子

川柳 猛 選
千切れ雲八十七の初詣り（富岡）黒沢 繁
いい人と言われ八十年を生き（野上）飯塚 邦武
リハビリで不用にしたい車椅子（宇田）一の宮 損徳
散髪後一本の毛にくすぐられ（二ノ宮）大野 里子
微笑んで勘で聴いてる遠い耳（富岡）金井 君代
習い事一つ減らしてホッとす（富岡）大河原富美
イメージとちがいあわてる初対面（相野田）小柴真知子
八十路越え枯葉のように身も細る（上高瀬）峰岸十四男
長電話聞いている猫が欠伸する（富岡）湯浅サチ子
更地ばかり少し見ぬ間の街の景（富岡）田島八千代